



# 農作業メモ



**水 稻**  
吉田 義文  
指導販売部  
0969-22-1105

## 中干し後からの水管理

中干し終了後（平年5月末日）から穂ばらみ期前までは、  
間断灌水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ  
登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しく  
なりますので、深水管理を行いましょう。

## 穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つ  
けましょう。畦から1畝以上水田に入り標本を採ります。  
標本は株の最長葉の茎を一枚のほ場から3株以上取りま  
す。茎は一枚ずつはいて、幼穂の長さを測ります。長さが1.  
0～1.5ミリの頃に穂肥を施用します。

## 穂肥の目安（出穂前25日前後…幼穂長1.0～1.5ミリ）

稲の葉色を見て適正な量を施用してください。

葉 色	4未満	4以上4.5未満	4.5以上
有機苦土047	15kg	10kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板（カラスケール）を使用してくだ  
さい。太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

## 病虫害防除

特別栽培においては防除回数が限られていますので、健  
全な稲作りと畦畔の草刈り等や、ほ場の見回りの徹底によ  
る耕種的防除と組み合わせた適期防除に努めてください。

尚、今年産より、**いもち病・穂枯れ病・紋枯れ病**等の対  
応として、**オリブライト**の散布（10a当り1kg）をお  
願い致します。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心がけ  
るとともに、栽培管理台帳への記入もお願いします。



# 5月の柑橘園管理



**果 樹**  
鶴浜 研二  
上島営農指導センター  
080-1771-4257

## 1. 病虫害防除

### ○温州みかん

時 期	対象病虫害	薬 剤 名	希釈倍数
上旬～中旬 (開花期間)	ケシキスイ類 コアオハナムグリ	モスピランSL液剤	4,000倍
	灰色カビ病	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍
中旬～下旬 (開花盛期～落弁期)	黒点病	ナティーボフロアブル	1,500倍

### ○中晩柑

時 期	対象病虫害	薬 剤 名	希釈倍数
上旬～中旬 (開花期間)	ケシキスイ類 コアオハナムグリ	モスピランSL液剤	4,000倍
	灰色カビ病	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍
中旬～下旬 (開花盛期～落弁期)	ホコリダニ	ハチハチフロアブル	2,000倍
	黒点病	ナティーボフロアブル	1,500倍

※養蜂が行われている地区では、周辺への飛散に注意してく  
ださい。

※灰色カビ病、そうか病対策でフロンサイドSC（2,  
000倍）も使用可能です。

※花のバラつきがある場合は、ホコリダニの防除でアプロ  
ードエースフロアブル（1,000倍）を使用  
してください。（カイガラムシ類同時防除）

## 2. 葉面散布

発芽～開花期は前年の貯蔵養分で活動します。新梢の充実  
と養分補給の為、チッ素主体の葉面散布を行いましょう。ま  
た、展葉後は早期に緑化を促進させる為、マグネシウムの葉  
面散布を行いましょう。

時 期	薬剤名	希釈倍数	備 考
新梢伸長期 ～開花期	尿 素 アミノジューシー N14 神協スピリッツ	500倍	樹勢維持 (いずれかを使用)
	ジューシーカル	1,000倍	新梢充実
展葉期 (4～6月)	葉面マグ	200倍	緑化促進 苦土欠対策

## 3. せん定の実施（蕾が小豆～大豆大の頃）

新梢の発生により被さり枝がある場合は、花に日が当たる  
ように除去しましょう。

### ○花が少ない場合

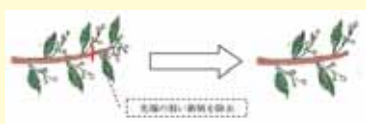
徒長枝の除去や無着花  
枝の芽かきを行い、着果  
促進を図りましょう。



### ○花が多い場合

先端部の弱い新梢を除  
去する。

着花が多いと予想され  
る園では樹勢維持の為、  
花肥えを行いましょう。ハイヤ1号 1袋/10a



## 4. 着果対策（かんぎつ）

ジベレリンの散布…ジベレリンを散布する事により、着果性  
が向上します。主に赤道部を中心に  
散布しましょう。尿素を500倍加用する事により効果が上  
がります。

○使用時期…開花～満開10日後（開花後処理時期が早いほ  
ど効果が高い）

○ジベレリン希釈表（開花期 25ppm）

ジベレリン液剤 40mlの場合	水 8Lに1本	尿素 500倍 (16g)	使用液量 10 a当たり50～ 100ℓ
ジベレリン液剤 100mlの場合	水20Lに1本	尿素 500倍 (40g)	

## 5. 施肥

対象品種	時期	肥料名	施肥量
早生、中熟、 普通温州	5月下旬	熊本果樹肥10-7-4 又は ひのくに果樹9-3-3	4袋/10a



野菜



## 春インゲン今後の管理



野菜

小林 優介  
下島営農指導センター  
080-1729-1635

これからの時期は、ハウス内温度、湿度共に高くなってきます。このため、灰色カビや、品温の上昇による蒸れ等発生しやすくなりますので、防除や収穫後の管理、換気等は注意をお願いします。

### 温度管理

15～25℃で日中30℃以上にならないように注意してください。

### 灌水・追肥

極端な乾燥は、収量・品質に影響するので、着莢後は少量多回数の灌水を行いスムーズに太らせませす。草勢を見ながら行き、後半は液肥で行います。

- 例) 穴肥           アサヒエース  
液肥           トミー液肥ブラック等(500倍)  
葉面散布       メリット青(500倍)

### 摘葉

摘葉は収穫を行いながら行き、老化葉・病葉・込み合う葉を摘葉し通風、採光を良くし、病害虫の発生を抑制しましょう。一度に沢山摘葉をすると樹勢の低下につながるため注意が必要です。

### 病害虫防除

ヨトウムシ類、マメハモグリバエ、スリップス等

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
アフーム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
ブレオフロアブル	1000倍	収穫前日	2回	ハスモンヨトウ、ハモグリバエ
カスケード乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
バダソグ水溶剤	1500倍	収穫前日	3回	マメハモグリバエ

### 灰色カビ病

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
セイビアーフロアブル20	1000～1500倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病
アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病

花卉



## 花の日持向上のポイント



花卉

吉澤 清  
下島営農指導センター  
080-1774-5386

花きの購買意識に関する各種アンケート等で、花を購入しない(しなくなった)理由として「日持ちしなかった」や「新鮮ではなかったから」が、常に上位にランクされることから、消費者ができるだけ長く花を楽しめるように、生産者段階において取り組むべきポイントを紹介しします。

### ポイントその① 彩花は涼しい時間帯に行います。

温度の高い時間の彩花は、収穫後の日持が悪くなります!!

I 日中(25℃以上の場合)は蒸散が盛んなため、水あげがしにくい環境となります。

II 植物体の消耗が激しく、切り花にダメージを与えやすくなります。

### ポイントその② 彩花ハサミを清潔に保ちます。

切り口から出る汁液によって細菌が繁殖する可能性があります!!

I 細菌が繁殖すると水あげが悪くなるため、乾燥させて保管します。

II よく研磨されたハサミを使用し、アルコールを含むウエットティッシュや除菌スプレーで除菌します。ハサミが研磨されていないと、切り口を潰してしまい、水あげがしにくくなります。

### ポイントその③ 彩花後の時間

彩花後はできるだけ早く(30分前後)前処理剤に浸け、冷涼な場所で保存するようにしましょう!!

I 彩花した切花をそのまま放置すると導管に空気が入り込み、水あげが悪くなります。

II 常温で切花を放置すると、貯蔵物質を消費し、日持ちが短くなります。

### ポイントその④ バケツの洗浄

不衛生なバケツでの前処理では、水あげが悪くなります。定期的にキッチンハイターや台所用洗剤等を使用して洗浄しましょう。洗浄後は乾いた状態で保管しましょう!!

I 不衛生なバケツは切り口での菌繁殖や切り口に汚れが付着しやすい環境となります。

II 吸水量が減ると前処理剤の吸収量が減るため前処理効果が

低くなります。

III 洗浄する道具は、硬い素材(たわし等)を使っているとバケツに傷が入り、そこで菌が繁殖します。できるだけスポンジ状のものを使用しましょう。

### ポイントその⑤ 前処理剤の使用

多くの切り花の日持は前処理剤を使用することで延長します!!

I 彩花後はすぐに前処理剤に浸けるようにしましょう。

II 彩花後水に浸けると、植物が水を吸収してしまい、その後前処理剤を使用しても吸収量が落ちます。

### ポイントその⑥ 前処理剤の希釈

前処理剤の希釈に使用するのは水道水を使用しましょう!!

I 井戸水の場合、細菌が増殖している可能性があります。井戸水の場合でも保健所の認可がある場所(飲料可能な水)であればOK。

II 希釈は計量カップを使い、適切な倍率のものを作りましょう。規定量より少ないと抗菌効果が不十分だったり、多すぎると逆に薬害が起こる可能性があります。

### ポイントその⑦ 作業場の環境

作業場が汚れていると病原微生物が増殖され、灰色カビ等の病害発生を引き起こします。

I 選別作業終了後はしっかりと作業台等の拭き上げを行い、きれいな状態を保ちましょう。使用した掃除道具も乾燥させ、菌が増殖しないようにしましょう。

II 作業場が暗いと花シミなどの発見が難しくなるため、適切な明かりで作業しましょう。

III 作業場の温度が高すぎる場合、花の日持が短くなるため、適切な温度(25℃以下)で作業を行いましょう。

IV 作業場の清掃を行いましょう。

せっかく作った花もちょっとした事で日持ちしない花になってしまう可能性があります。

花を買った人に喜んでもらえるように、栽培以外のところでも日持を意識した花き生産に取り組みましょう。